

マリ共和国を相手国とするTokyo2020ホストタウン登録申請について

令和元年6月28日

市民部

1 目的

本市は、内閣官房が進めるTokyo2020ホストタウン事業の趣旨に賛同し、平成28年12月、30年以上にわたるビクトリア市との姉妹都市交流の実績をもとにカナダを相手国とするホストタウンの認定を受けた。

一方で、Tokyo2020を契機に、これまで交流のなかった国をホストタウンの相手国とすることにより、本市が目指す将来像「ひと・まち・未来が輝き世界につながるまち盛岡」に貢献できると考え、検討を進めてきた。

今般、事前合宿実施に関するマリ共和国柔道連盟との協議が整ったことから、内閣官房に対してマリ共和国を相手国とするホストタウンの申請を行おうとするものである。

2 マリ共和国を相手国としたホストタウンの受入れ理由

内閣官房は、ホストタウン登録を推進する中、登録が極端に少ないアフリカ諸国を相手国としての受入れに力を入れており、特に既にホストタウン登録し、活動している本市には直接要請があった。

本市としては、オリンピックの盛り上げのためにも、条件が整えば受入れに協力したいと考えていたところ、東京盛岡ふるさと会の会員で、NGOカラ＝西アフリカ農村自立協力会（以下「カラ」という。）の代表として、長年にわたりマリ共和国の保健環境改善、教育等幅広い活動を行っている村上一枝氏（盛岡二高白梅同窓会東京支部会長）から、仲介役として相手国政府との交渉から実際のホストタウン事業の実施に至るまでカラの全面的な協力を得ることとなり、マリ共和国を相手国としたホストタウンの受入れを検討する運びとなった。

3 これまでの経緯

平成29年5月 カラ代表から、支援活動で長年携わっているマリ共和国のホストタウン登録の可能性についての提案があり、検討を始める。

6月 本市からカラ代表に対し、マリ共和国を相手国とするホストタウン事業（競技は柔道を想定）への協力を正式に依頼。

平成30年9月 カラ代表がマリ共和国を訪問した際、オリンピック出場の可能性の高い、同国柔道連盟に対し事前合宿実施について打診（回答期限：令和元年9月）。

令和元年5月 同国柔道連盟からカラ代表を通じて本市に事前合宿の実施を希望する旨の回答。

6月 本市が岩手県柔道連盟に対し、事前合宿受入の協力要請を行い、了承を得る。  
マリ大使館及び内閣官房を訪問し、経緯及び今後の対応について説明。

#### 4 事業計画概要

##### (1) 事業計画の骨子

- ・マリ共和国柔道代表の事前合宿受入れ
- ・盛岡市民に対するマリ共和国の歴史・文化の紹介
- ・本市を訪れるマリ共和国柔道代表に対する日本の歴史・文化の紹介

##### (2) 事業計画の概要

###### 令和元年度

- ・柔道事前合宿受入れ覚書締結
- ・市民への周知啓発（広報による周知、のぼり旗の作成、マリ共和国文化の紹介イベントなど）
- ・柔道事前合宿受入れの準備

###### 令和2年度

- ・市民への周知啓発（ホストタウン・イベントの開催、マリ給食の実施など）
- ・柔道事前合宿の受入れ
- ・事前合宿中の市民交流（選手の日本文化体験、地元スポーツ少年団による合宿見学など）

###### 令和3年度以降

- ・ホストタウン・レガシーの継承（マリ共和国を含むアフリカ諸国を対象とする啓発事業の継続など）

##### (3) 費用負担

- ・令和元年度 オリパラ基本推進調査費（内閣官房によるホストタウン未登録国の登録促進事業100万円申請中）  
ホストタウン登録後の事業については特別交付税（事業費の1/2措置）
- ・令和2年度 特別交付税（事業費の1/2措置）

#### 5 事前合宿

##### (1) 受入競技 柔道

##### (2) 受入予定人数 監督、コーチ、選手（男4名、女2名）計8名

【参考】 リオオリンピックにおけるマリ共和国柔道競技参加選手1名

#### 6 今後のスケジュール

令和元年7月上旬	東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣へ ホストタウン登録申請書提出
8月30日	ホストタウン登録決定（予定）
令和2年1月下旬	覚書締結（予定）
令和2年7月中旬	事前合宿（予定）

#### 7 その他

##### (1) マリ共和国の概要 別紙1

##### (2) NGOカラ＝西アフリカ農村自立協力会について、ホストタウン登録の状況 別紙2

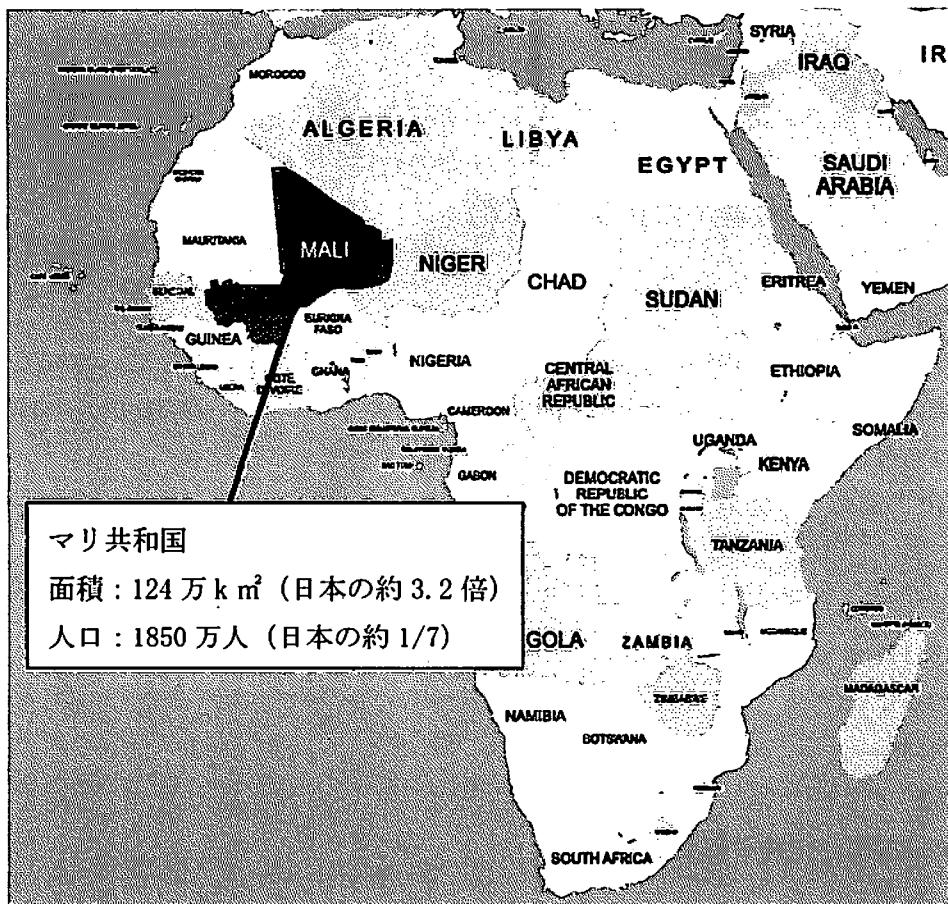
## マリ共和国について

マリ共和国、通称マリは、西アフリカに位置する共和制国家。西をモーリタニア、セネガル、北をアルジェリア、東をニジェール、南をブルキナファソ、コートジボワール、南西をギニアに囲まれた内陸国である。首都はバマコ。

国土の北側3分の1はサハラ砂漠の一部であり、ちょうど中心を流れるニジェール川沿岸に農耕地が広がる。南部はやや降水量の多いサバンナ地帯である。

(ここまで出典： Wikipedia)

(以下出展：マリ共和国大使館 HP)



### ①概説

正式名称：マリ共和国（英語名称：Republic of Mali）

略式名称：マリ（英語略式名称：Mali）

大統領：イブラハム・バカール・ケイタ閣下

首相：ボウボウ・シセ博士

独立記念日：9月22日（1960年フランスから独立）

公用語：フランス語

その他言語：バンバラ語，ボボ語，ボゾ語，ドゴン語，フラニ語，ソニンケ語，ソンホイ語，セヌフォ語，マニアンカーママラ語，トゥアレグ語，アラビア語ハッサニア方言，ハソンガハンノ語，他

主な民族：バンバラ族，ボボもしくはボム族，ボゾ族，ドゴン族，フラニ族，ソンニケ族，セヌフォ族，マニアンカ族，トアレグ族，アラブ／マンデ族，ハソンガハンノ族，他

通貨：CFA フラン（旧フランス領西アフリカ及びフランス領赤道アフリカを中心  
に用いられる共同通貨，1 円≈5 フラン）

## ②地理

首都：バマコ 人口約 300 万人（2014 年時点）

その他都市：シカーゾ，モプティ，クティアラ，ケーズ，  
セグー，ガオ

気候：亜熱帯乾燥気候

3月～6月：暑熱，乾燥（平均温度 30.9°C）

6月～10月：雨季，多湿で穏やか（平均気温 27.2°C）

11月～2月：冷涼，乾燥（平均気温 26.05°C）

最高地点：ホンボリ山（1155m）

最低地点：セネガル川（23m）

気温：日中は 30°C から 40°C で推移。中央地域，北部，西部では 3 月から 5 月にかけ 45°C  
になる場合もある。11 月から 2 月にかけ，特にガオやトシブクトゥ地域では，夜間  
の気温は 25°C から 15°C に下がる。

地方行政：マリは 10 の地域と主要地域バマコに分類され，708 の自治体，と 11,000 の村がある。

## ③経済

GDP：512.07 billion dollars US (2014)

農業：GDP の 38.5%

産業：GDP の 24.4%

サービス業：GDP の 37%

輸入：機械，石油製品，消費者製品

輸出：金，綿，家畜

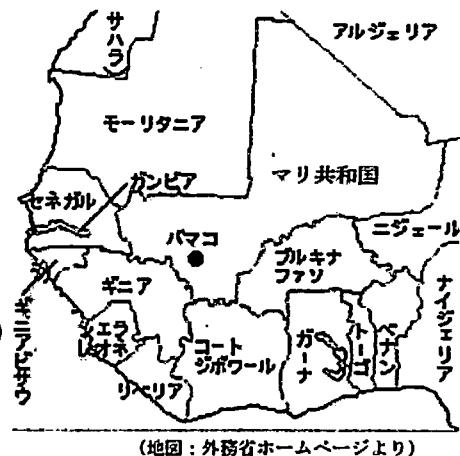
輸入国：フランス(11.1%)，セネガル(10.1%)，コートジボワール(9.2%)，中国(7.6%)

輸出国：中国(30.5%)，インド(15.1%)，インドネシア(8.6%)，バングラデシュ(6.3%)，  
タイ(5.6%)

主要産業：農業（アフリカにおける主要な綿生産国の一であり，金に次いで 2 番目の輸出品。  
他に，米，雑穀，モロコシ，とうもろこし，果物や野菜，さとうきび，じゃがいも，  
ごま，カシューナッツなどがある。）

鉱業（金が最も多い輸出品である。マリ経済は金の生産により成り立っている。）

家畜（牛，羊，やぎ，ラクダ，養鶏）



## NGO カラ＝西アフリカ農村自立協力会について

設 立：平成3（1992）年9月

代 表：村上 一枝（むらかみ かずえ）

事業対象分野：自立を目指した村落開発事業の支援

対象地域・国：マリ共和国（西アフリカ）クリコロ県、クーラ県、シカソ県の農村

設立経緯：西アフリカの農村に住む人達がより健康で明るい毎日を送れるように支援することを目的に平成3（1992）年9月に「マリ共和国保健医療を支援する会」を発足し、翌年、現在の名称に改称。  
現在も支援活動を継続している。

組織の目的：砂漠化と疾病、貧困に苦しむ西アフリカの農村地域において、住民と共に農村自立活動をおこない、西アフリカの農村住民が、健康で未来への希望を持てる自立的生活を主体的に構築することに、協力すること。

主な事業：西アフリカにおける次の協力活動の実施、水資源の確保、保険衛生知識普及と病気予防、教育の普及、女性の生活改善、環境保全、所得の向上、その他農村自立に寄与する活動  
(1) 事業のための調査、企画、評価活動等  
(2) 機関紙等による広報活動、啓発活動  
(3) その他、会の目的を達成するために必要な活動

## ホストタウンの登録状況

ホストタウンについては、本年4月現在で310件、381の地方公共団体が登録されている。このような中で、ホストタウンの相手国は121カ国にとどまっており、その多くは欧米、アジア諸国に集中している。一方でアフリカ大陸（54か国中、35か国が未登録）、中南米（39か国中、27か国が未登録）、中東（15か国中、14か国が未登録）のホストタウンが少ないため国では登録を呼びかけている。